第７回科学の甲子園全国大会出場記

期　　日：平成 30 年 3 月 16 日（金）～19 日（月）
場　　所：ソニックシティ及びサイデン化学アリーナ（埼玉県）
活動内容　：１日目―筆記試験　２日目―実技試験　３日目―シンポジウム・表彰式
　　４日目―エクスカーション
参加生徒：２年生６名、１年生２名

科学の甲子園では、47 都道府県の選抜チームが「科学的思考力」を武器に鎬を削る。与えられた課題を実験・実習によって解決する実技競技に重きを置いていることが特徴で、その中でも特に事前公開競技は毎年熾烈な争いとなる。今年の舞台は埼玉県。１月に、今回の事前公開競技が「はばたけ！コバトン　～ワイヤレス給電はばたき機レース～」というご当地問題であることが発表され、奮闘の２か月が始まった。

最初は、文字通り空回りの連続だった。ものづくりの技能に疎く、安定的に前進するビジョンが見えなかった。しかし、粘り強く理想的な構造を研究したり、材料の加工法を検討したり、数多くの先生の助言を受けたりする中で、少しずつ記録を縮められた。試行錯誤の結果、30m の釣糸の上を 16 秒で飛行する最良の機体と最良のコイルが完成した。休日練習も含めれば総練習時間は 150 時間ほどになった。事前公開競技ほどではないが、筆記競技や他の実技競技にも十分備えた。

遂に迎えた本番。筆記競技に関しては、尋常でない緊張感に襲われながらも、辛くも大きな失敗はせずに終えられた。その晩も、明くる日の事前公開競技に向けて製作練習を励行した。生物・物理の実技競技は、可もなく不可もなくという所だった。そして訪れた事前公開競技。結論から言うと、僕らのコバトンはゴールに辿り着くことすらできなかった。接触不良など原因は色々と考えられたが、どうにもならなかった。あまりに呆気ない幕切れに、砂を噛むような思いを抱いた。

想定外の事態に絶望することもあったが、やはり科学の甲子園は良い経験だった。高い目標を志す仲間との出逢い。今回戦ったライバルの中には、日本や世界の科学技術コンテストで好成績を残す猛者もいた。彼らに勝てなかったことは悔しいが、その実力に驚嘆したことはその後の糧となった。ふるさと富山やその他の都道府県への理解の深化。スワップミート（土産交換会）やフェアウェルパーティーでは、多くのチームが出身地の魅力を前面に押し出していたし、外から見た富山の印象も語ってくれた。

科学の甲子園への思いは語り尽くせないが、次回大会に出場する後輩には是非とも頂点を掴み取ってほしい。そして、この場を借りて、支えてくださった全ての方々への感謝を述べさせていただきたい。本当にありがとうございました。